ISSN 0439－1713

弘 前 大 学

教 育 学 部 紀 要

第 121 号
平成31年３月

Bulletin of the Faculty of Education Hirosaki University

No. 121
March 2019

弘 前 大 学 教 育 学 部
Hirosaki, Japan

目　　次

新潟県立図書館所蔵の往来物資料…………………………………………………………郡　　千寿子（１）
　　―出版地域別の観点から―

廃名『莫須有先生伝』訳稿（一）……………………………………………………………張　雪　晶（７）
山　田　史　生

歴史教科書の「終戦」記述と玉音写真……………………………………………………大　谷　伸　治（19）
　　―2002年以降の変化とその問題点―

戦後史学習の再構築に向けて………………………………………………………………小　瑶　史　朗（29）
　　―歴史教育者協議会における議論の足跡を手がかりとして―

1960～70年代前半期における中学校の自治活動の展開…………………………………篠　塚　明　彦（41）
　　―弘前大学教育学部附属中学校の自治会活動を中心に―

『バイエルンの音楽記念碑』第二次世界大戦後の構成と音楽史観の変化………………朝　山　奈津子（51）

『オーストリアの音楽記念碑』における第二次世界大戦後の構成と音楽史観の変化…朝　山　奈津子（61）

音楽の創造行為における試行錯誤の理論化の試み（2）…………………………………清　水　　稔（71）
　　―現象学視点による創造行為の外的な契機と内的な契機の定義―

同一材料を活用した表現３領域の内容考察…………………………………………………蝦　名　敦　子（81）
　　―大学生の授業実践を通して―

弘前大学教育学部学生の健康度と生活習慣について……………………………………益　川　満　治（91）
杉　本　和那美
上　野　秀　人
髙　橋　俊　哉
戸　塚　　学
清　水　紀　人

圧密化木材の物性に関する研究……………………………………………………………廣　瀬　　孝（101）
　　（1）スギの早材と晩材の違いについて

りんご剪定枝を原料とした活性炭に関する研究…………………………………………廣　瀬　　孝（105）
　　（1）収集時期の違いとその物性について

鯵ヶ沢に自生するハマボウフウの保全に関する研究……………………………………勝　川　健　三（109）
　　（1）自生地と表層堆積物の粒度組成
赤　平　江莉香
蛯　名　泰　智
盛　　眞知子

バナナの澱粉に関する研究…………………………………………………………………加　藤　陽　治（115）

青森県産マルメロ果実の食物繊維と細胞壁多糖…………………………………………藤　田　典　子（121）
加　藤　陽　治

むつ市民を対象とした３年間の「食育・健康講座」が受講者に与えた効果……………三 浦 咲 織 (129)
坂 本 謙 二
早 川 和 江
日 景 弥 生
加 藤 陽 治

平井信義の「叱らぬ教育」論と本吉圓子の保育実践における「叱り」…………………武 内 裕 明 (137)
－自由保育的実践と理論の関係に関する考察－ 井 上 裕美子
畑 山 朗 詠
欧 陽 仁 萍

安全教育と大学生の刺激欲求性，リスク認知及び不安全行動との関連…………………小 原 千 実 (149)
原 郁 水

養護教諭の臨床判断に関する測定用具の開発…………………………………………………葛 西 敦 子 (157)
福 田 博 美
山 田 玲 子
佐 藤 伸 子
秋 月 百 合
小 川 真由子

授業記録の新たな様式の開発：…………………………………………………………………森 本 洋 介 (167)
学部教育実習での活用を目的として

活用のためのエビデンス論………………………………………………………………………桐 村 豪 文 (179)
―「そこでうまくいった」から「ここでうまくいく」への飛躍―

教職大学院における教員の職能開発とその効果検証の方法………………………………三 浦 智 子 (189)
―「授業アンケート」の可能性と課題― 上 野 秀 人
吉 原 寛

地域移動を伴う地方高卒就職者のためのキャリア教育・キャリア支援…………………吉 田 美 穂 (199)
－若者の移行経験に注目して－

高校生用家庭ストレッサー尺度の作成……………………………………………………吉 原 寛 (211)

教員養成カリキュラムの効果検証………………………………………………………………吉 崎 聡 子 (219)
―卒業時学生アンケートにおける自由記述の計量テキスト分析 福 島 裕 敏
豊 嶋 秋 彦
吉 中 淳
平 岡 恭 一

弘前大学教育学部紀要刊行及び投稿規定

弘前大学教育学部　研究推進委員会　紀要編集担当

１．本紀要は本学部で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
２．発行は原則として各年度の10月及び3月の年２回とし、各号はＡ４版で約150ページとする。
３．原稿の締切は概ね7月下旬及び１月上旬とする。
４．論文の著者には本学部または教職大学院の教員が含まれていなければならない。
５．論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
６．各論文の長さは図表等を含めて刷り上がり10ページ以内とする。なお、印字の大きさは9ポイント活字相当とし、1印刷ページは和文で1行24字、45行の2段組で2,160字とする。英文等の場合は1段組とする。
７．原稿の作成に際しては所定の執筆要領（別掲）に従うものとする。
８．搭載順序など、編集に関することは本委員会紀要編集担当が決定する。なお、論文の内容等について疑義が生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば訂正等を求める。
９．原稿の受理後における内容の変更等は認めない。
10. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
11. 論文が10ページを超える場合や、カラー印刷や図版の作製などに特別の経費を要する場合は、その経費は原則として著者負担とする。
12. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とすることがある。
13. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要部数を申し出る。経費は著者負担とする。
14. 本紀要に掲載された論文の著作権は当該論文の著者に帰属する。ただし、本委員会は掲載された論文を電子化し、「弘前大学学術情報リポジトリ」に掲載して公開することができるものとする。

この規定は，平成30年4月から施行する。

弘前大学教育学部紀要執筆要領

１．原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサー等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したUSBメモリ，CD-R等を添付することが望ましい。
２．原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。なお、英語に変えて、他の汎用性の高い言語を用いてもよい。
３．本文の前には同一の言語による要旨（Abstract）及び、キーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。なお、更に別の言語による要旨をおいてもよい。キーワードは数語以内とする。
４．文献の引用は原則として本文中の該当個所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
５．印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入個所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
６．図表（写真、楽譜含む）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することは避け、原則として一つずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるよう明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
７．原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」を添付し、本委員会紀要担当者に確認を受ける。

研究推進委員会 紀要編集担当

山　本　　　稔（代表）
出　　　佳奈子
武　内　裕　明
山　田　史　生

弘　前　大　学
教　育　学　部　紀　要
第121号
（2019年３月）

平成31年３月23日印刷
平成31年３月28日発行
編集兼発行者
弘前大学教育学部
弘前市文京町１番地
電話（0172）36－２１１１㈹
印刷所　小　野　印　刷
弘前市富田町52
電話（0172）32－７４７１㈹

Study on banana starch …………………………………………………………………… Yoji KATO (115)

Dietary fiber and cell wall polysaccharides in the fruits of quince ……………… Noriko FUJITA (121)
(*Cydonia oblonga* Mill.) from Aomori Prefecture. Yoji KATO

Effects of "dietary education and health lecture" ……………………………………… Saori MIURA (129)
held in Mutsu city for 3 years on participant's consciousness Kenji SAKAMOTO
Kazue HAYAKAWA
Yayoi HIKAGE
Yoji KATO

Nobuyoshi Hirai's theory of "No Scolding Education" and …………………… Hiroaki TAKEUCHI (137)
Matoko Motoyoshi's "scolding" in childcare practice: Yumiko INOUE
An examination of the relationship between the practice Akie HATAYAMA
and the theory of Jiyu-hoiku Renping OUYANG

Relation between Safety Education and Sensation Seeking, ……………………… Kazumi OBARA (149)
Risk Perception or Risk Behavior of University Students Ikumi HARA

Development of a Measurement Tool for the Clinical Judgment ………………… Atsuko KASAI (157)
of *Yogo* Teachers Hiromi FUKUDA
Reiko YAMADA
Nobuko SATO
Yuri AKIZUKI
Mayuko OGAWA

Proposal about New Template of the Class Record: …………………………… Yosuke MORIMOTO (167)
Targeting the Teaching Practice in Initial Teacher Training

Theory of Evidence for Use ………………………………………………………… Takafumi KIRIMURA (179)
The Travel from "It Worked There" to "It will Work Here"

A Study on the Method for Proving Effect of the Professional …………………… Satoko MIURA (189)
Development Program of Teachers in Graduate School : Hideto UENO
The Challenge of the Survey by Questionnaire about Training Hiroshi YOSHIHARA
in College Classes

Career Education and Support for High School Graduate Employee …………… Miho YOSHIDA (199)
with Residential Mobility:
Focusing the Experience of Youth Transition

Development of a Family Stressor Scale for High School Students ……… Hiroshi YOSHIHARA (211)

Examination of Effects of Initial Teacher Education Curriculum Reform … Satoko YOSHIZAKI (219)
-A Text Analysis of Free Description Responses Hirotoshi FUKUSHIMA
to the Curriculum Evaluation Questionnaire Akihiko TOYOSHIMA
in Graduating Students Atsushi YOSHINAKA
Kyoichi HIRAOKA

CONTENTS

Investigation report on "OURAIMONO" documents .... Chizuko KOHRI (1)
of Niigata Prefectural Library possession:
A study based on the publication place

Fei Ming's Moxuyouxiansheng zhuan : .... Xuejing ZHANG (7)
A Transportation (1) Fumio YAMADA

A Note on the Description of when the Asia-Pacific War finished .... Shinji OHTANI (19)
and the Photographs of the Japanese People listening
to Imperial Radio Broadcast announcing the End
of the War in History Textbooks after 2002

Toward Reconstruction of Learning Theory for Contemporary .... Fumiaki KODAMA (29)
Japanese History :
A Theoretical Analysis on the Past Discussions
in History Educationalist Conference of Japan

The self-government activities in Junior high school in the 1960's .... Akihiko SHINOZUKA (41)
and the early 1970's :
Focusing on the self-government activities at Junior high school
attached to the Faculty of Education, Hirosaki University

Die musikgeschichtlichen Anschauungen in den *Denkmälern* .... Natsuko ASAYAMA (51)
der Tonkunst in Bayern:
Der Wandel der Reihenstruktur und der Historiografie nach
dem zweiten Weltkrieg

Die musikgeschichtlichen Anschauungen in den *Denkmälern* .... Natsuko ASAYAMA (61)
der Tonkunst in Österreich:
Der Wandel der Reihenstruktur und der Historiografie nach
dem zweiten Weltkrieg

Re-considering the concept of trial and error for creative music-making: ...... Minoru SHIMIZU (71)
Definition of external triggers and internal opportunities
for creative acts based on phenomenological viewpoint

Study on the Content of 3 Genres of Representation Using Identical .... Atsuko EBINA (81)
Material in University Classes

About the health and lifestyle habits of the faculty .... Mitsuharu MASUKAWA (91)
of education student at Hirosaki University Kanami SUGIMOTO
Hideto UENO
Toshiya TAKAHASHI
Manabu TOTSUKA
Norihito SHIMIZU

Study on properties of compression wood .... Takashi HIROSE (101)
(1) Difference between early wood and late wood of Sugi

Study on activated carbon from apple pruned branches .... Takashi HIROSE (105)
(1) Differences in time to collect and its properties

Study on the conservation of *Glehnia littoralis* F. Schmidt ex Miq. ....Kenzo KATSUKAWA (109)
in Ajigasawa Erika AKAHIRA
(1) Native Habitat and Grain-Size Distribution of Surface Sediment Taichi EBINA
Machiko MORI